

<2012年度長野大学研究助成金による研究報告>

(準備研究)

乳幼児社会的養護におけるケア提供者(施設職員、里親等) トレーニングプログラムFAIR start projectの 国内での実践応用にむけての研究

上鹿渡 和 宏*

Kazuhiro KAMIKADO

研究実績の概要

本研究は、わが国の乳幼児社会的養護における家庭的養護の推進のための具体的方法について、EU内で検討され実施されてきたFair start projectを参考に具体的実践を目指す準備研究である。研究対象としたプログラムは脱施設化ではなく子どもの最善の利益の実現を第一の目的としており、施設養護、家庭養護両方のケア提供者のスキル向上と、システム改善に関する取り組みである。その開発に至る背景、開発過程、そして具体的なプログラムの内容について日本国内での紹介、実践を目指して準備した。

計画としては、最初に本プログラムの個別セッション設定の理論的背景となるこれまでの実証的研究成果の整理に取り組み、その成果は「英国・欧州における社会的養護に関する実証的研究の変遷と実践への影響」として長野大学紀要34(2)の1～13頁で報告した。また、実証的研究成果の中でも、我が国社会的養護の転換期にあたって特に重要と考えられた資料については、2012年12月に「イギリス・ルーマニア養子研究から社会的養護への示唆」として翻訳出版することができた。

同時に、プログラムの15回のセッションと実施のためのハンドブックの翻訳にも取り組んだ。現時点ではハンドブックとセッションについては途中までの翻訳を終えているが日本語版の完成には至っていない。各セッションの内容を、参考となる論文や報

告を参考にしてよく吟味しながらの翻訳作業であり、当初の予定よりも時間を要することが途中で明らかになった。そこで、まずは全体の概要について把握した上で個々のセッションの詳細な翻訳に入る必要があると考えた。本プログラムの開発経緯、プログラムの枠組みや実施についての注意事項、また、各セッションの概要についてまとめたものを「フェアスタートプログラムの開発経緯とその内容、意義について」と題して長野大学紀要34(3)の11～24頁に報告した。これはセッション全体を翻訳し終えた後、現場での実践評価も想定し、早めにプログラムの存在自体を関係者に周知するためにも必要な資料である。また、これについては2012年度日本児童青年精神医学会総会のポスター発表でも概要を報告し、社会的養護にかかわる関係者からは今後の研究の展開を期待する声も頂いた。

また当初の研究予定の中で示した、本プログラム創始者のライガード博士と直接のインタビューも実施し、これまでの翻訳作業での疑問点や、今後の方向性について詳しく確認することができた。特に本プログラムの特徴として筆者が注目していることの一つである、施設養護と家庭養護、両方のケア提供者のためのプログラムとして実際にどの程度機能しているのか、特に家庭養護における実際について確認できたことは今後の研究の方向を定めるためにも非常に重要な成果であった。筆者は今後日本での実施に向けた準備としてその内容を確認するなかで、

*社会福祉学部准教授

本プログラムは主として施設スタッフを対象として考えられた内容であり、里親など家庭養護におけるケア提供者の支援としては不足があると感じていた。この点をライガード博士に確認したところ、すでに里親用のプログラムを別に検討中とのことで、その草案の一部を見せていただくことができた。ただ、そのプログラムについては未実施であり、実際の効果についてもまだ評価されていないものであった。

厚生労働省の明確な指示のもと、家庭的養護推進への機運が高まった日本の現状においては、実際に里親委託率が急激に増えている地域もある。今まさに里親養育のケアの質をどう維持するか、そのためのケア提供者への支援方法やシステムの再構築が子どもの最善の利益を守るために喫緊の課題となっている。このニーズを考えるとフェアスタートプログラムの実施において、施設でのケア水準向上への対応については効果が期待されるものの、里親養育については、現時点で示された内容では不十分であり、わが国での実施にあたっては、里親支援に関する取り組みを補強しながら同時に進める必要があると筆者は考えるに至った。

筆者は以前から英国における社会的養護の実践についても調査研究してきたが、その中でも英国ですでに10年以上にわたって実施されその効果に関するエビデンスも示されているFostering Changesプログラムを補強として考え、その紹介と導入も同時に進めることを考えている。

フェアスタートプログラムの翻訳については未完であるが、今後も日本語版完成に向けた作業は継続し、できる限り早期にインターネット上での学習可能な状況を整えたい。また、新たに追加された里親用プログラムについても今後日本語版の準備を検討したい。最終的には施設養護と家庭養護、両方の取り組みを提示しながら、子どもの置かれた状況に応じて、それぞれの場面で子どもにとって最善の利益が得られるような対応や支援を確立させるべく実践を展開したいと考えている。

研究発表

雑誌論文

1. 上鹿渡和宏「英国・欧州における社会的養護に関する実証的研究の変遷と実践への影響」長野大学紀要、査読の有無・無 第34巻2号、2012年11月、pp. 1-13
2. 上鹿渡和宏「フェアスタートプログラムの開発経緯とその内容、意義について」長野大学紀要、査読の有無・無 第34巻3号、2013年3月、pp. 11-24

学会発表

1. 上鹿渡和宏「EUにおける乳幼児社会的養護の実践について」第53回日本児童青年精神医学総会ポスター発表、2012年11月